

筑波大学山岳科学センター
機能強化（調査研究）プロジェクト申請書

申請日 令和6年7月5日

筑波大学山岳科学センター長 殿

代表者

所 属：生命環境系

職 名：准教授

氏 名：興梠克久

電話番号：

e-mail：

下記のとおり調査研究費を申請します。

記

申請区分	どちらかをチェックしてください。			
	☐ 重点研究 ☒ 個別調査研究			
課題名	自伐・自伐型林業による集落営林の担い手形成 —静岡県安倍・大井川流域および群馬県みなかみ町を事例に—			
参画者 *4名以上の場合は備考欄に記載	1	氏名：興梠克久	所属：生命環境系	職名：准教授
	2	氏名：高橋渉	所属：山岳科学学位プログラム	職名：研究生
	3	氏名：張碩	所属：農学学位プログラム	職名：3年
山岳科学センターの機能強化への貢献	本プロジェクトは、山活用部門における「地域社会、山間地域の持続的発展のあり方」のうち、中山間地域における自伐・自伐型林業による集落営林の担い手の形成過程の現状と課題を林業経済学および村落社会学、協同組合論（ワーカーズ・コレクティブ）の視点から分析するものである。（※なお、自伐林業とは、自己所有森林の伐採・搬出を含む森林管理作業を自家労力で行う自営林業のことを指し、自伐型林業とは、森林を所有しない、もしくは所有していてもこれまで管理を行っていなかった地域住民や都市部からの移住者が、地域の森林所有者から森林を預かり、伐採・搬出を含む森林管理作業を自家労力で行う自営林業のことを指す。また、集落営林とは、集落範囲内の私有林や慣行共有林を自伐・自伐型林業者やその団体が集約化・団地化して取り組む林業経営の一形態である。） 自伐・自伐型林業の動きは2010年代以降、全国に広がりつつあるが、これによる集落営林の林業経済学・村落社会学・協同組合論的研究は全国的に見ても九州大学や本学など非常に限られており、本プロジェクトにより山岳科学センターの山活用部門における新たな研究領域の創出の足掛かりを得られ、ひいては山岳科学センターの機能強化に結び付くと考え。			
研究・事業の目的	本研究は、静岡県および群馬県内で集落営林に取り組む自伐・自伐型林業者への一斉調査（アンケート等による）および聞き取り調査をもとに、それらの組織化の過程と存在形態を明らかにし、自伐・自伐型林業			

	者の組織化の意義と課題、今後の展望を明らかにすることを目的とする。静岡県（特に大井川・安倍川流域と天竜川流域）は、従来から林業＋茶の農林業複合経営が盛んで、1990年代以降に自伐林家グループの設立が活発であり、2000年代以降の自伐林業に関する研究蓄積がある（主として興梠による）。また、群馬県みなかみ町では町の支援の下、都会からの移住者による自伐型林業の取り組みが活発化している。つまり、静岡県は自伐林業者、みなかみ町は自伐型林業者の事例として位置づけており、両地域は研究蓄積及び自治体施策の状況等を勘案して自伐・自伐型林業を研究するフィールドとして相応しい地域である。
研 究 ・ 事 業 の 内 容 と 計 画	自伐林業（静岡県）、自伐型林業（群馬県）に分けて、以下の要領で現地調査を行う。 （１）静岡県庁の協力を得て（※すでに打診しており協力は得られる見込み）、静岡県内の自伐林業者の組織に対する一斉アンケートを 8～9 月に実施し、自伐林業組織の構成員、実施事業内容、組織の法人化の状況、抱えている課題等を整理しつつ、これらの存在形態を明らかにする。類型ごとに典型事例を取り上げ、集落営林に向けた取り組みの過程と課題、展望、支援の在り方等について整理する。 （２）みなかみ町での田園回帰支援施策を踏まえたうえで、同町の協力を得て（※すでに打診しており協力は得られる見込み）、町内の自伐型林業者に対する一斉調査（アンケート及び聞き取り）を行い、自伐林業組織の構成員、実施事業内容、組織の法人化の状況、抱えている課題等を整理する。
期 待 さ れ る 成 果	（１）これまで比較的研究蓄積の少ない自伐・自伐型林業による集落営林の担い手形成に係る林業経済学・村落社会学・協同組合論的研究を、森林利用学（林業工学）や森林育成学等の隣接分野と連携しつつ、山岳科学センターで行うことにより、同センターの機能強化に貢献することが期待される。 （２）自伐型林業に関する社会科学的研究を修士研究課題として希望する他大学の学生が今年度、山岳科学学位プログラムを受験予定であり、仮に合格した場合に、当該学生の修士研究の研究フィールドとして本プロジェクトの事例調査地を検討し、それに向けての予備調査として本プロジェクトの一部を位置づけることが可能である。 （３）山岳科学学位プログラムを卒業した研究生が参画して本プロジェクトを進めることは、当該学生の問題解決能力の醸成、今後の進路（農学学位プログラムの受験等）にも好影響を与えることが期待される。
関連課題での大型 研究費申請の可能 性の有無	有・ 無 （有の場合は概要を記載）重点課題は大型予算申請へのプロセスを記入。
研 究 経 費 の 内 訳	（１）静岡県・群馬県内でのアンケート経費（40 か所程度） 1 万円 （２）静岡県現地調査（教員 1、学生 2） 交通費 1.5 万円×3 人 4.5 万円 レンタカー経費（燃料、高速代込み） 1 日 1 万円×2 日 2 万円 宿泊費 1 人 1 泊 1 万円×2 泊×2 人 4 万円 （３）群馬県現地調査（教員 1、学生 2） レンタカー経費（燃料、高速代込み） 1 日 1 万円×3 日 3 万円 宿泊費 1 人 1 泊 1 万円×2 泊×2 人 4 万円 （４）関連図書購入 1.5 万円 （５）合計 20 万円

外部資金獲得状況 (過去5年間) *代表者のみ 不採択になった研究費申請も記載する(科研費以外も含む)。	【採択分】 1. 職業能力の「見える化」に対応した林業雇用管理のあり方に関する研究(研究代表), 2016~18(採択), 科学研究費助成事業/基盤研究(C) 2. 水源涵養機能を最重要視した水源林経営の再編過程: 全国の水道事業者を対象に(研究代表), 2019~20(採択), 公益財団法人阪本奨学会/2019年度公益財団法人阪本奨学会研究助成 3. 青少年教育施設等と連携した森林ESD推進体制構築に向けた調査(研究代表), 2019(採択), 全国社会教育職員養成研究連絡協議会/青少年教育施設等と連携した森林ESD推進体制構築に向けた調査に対する研究助成 【不採択分の大型資金】 なし 【不採択分のその他】 1. 地域森林の社会的管理への参画と林業技能習熟過程の多様化に関する調査研究(研究代表), 2020(不採択), 公益社団法人国土緑化推進機構/令和2年度「緑と水の森林ファンド」公募事業助成
主な研究業績 (過去5年間) *代表者10件以内、参画者5件以内	(代表者) 1. <u>興梠克久</u> (2024)「林業従事者像の再構成」『林業経済研究』70(2): 1-17 2. <u>興梠克久</u> (2023)「林業と他の仕事を組み合わせる」二平章・佐藤宣子編著『ほんとうのエコシステムってなに? (世界の食・農林漁業・環境③)』農山漁村文化協会: 146-149 3. 松崎誠・<u>興梠克久</u> (2022)「福島県における林業一人親方団体の現状と課題」『林業経済研究』68(3): 25-31 4. 山口広子・<u>興梠克久</u> (2022)「横浜市有道志水源林における事業展開と課題: 1990年代以降の経営方針の転換に着目して」『森林計画学会誌』56(1): 1-11 5. 十川陽香・<u>興梠克久</u> (2021)「武道用木刀の生産および流通の現状と課題」『林業経済研究』67(3): 39-49 6. <u>興梠克久</u> (2021)「自伐林業」「緑の雇用制度」日本森林学会編『森林学の百科事典』丸善出版: 556、578 7. Yoshida Mika and <u>Kohroki Katsuhisa</u> (2019) Forestry machine sharing system in self-employed forestry. Journal of Forest Research 24(2): 71-76 8. Akie KAWASAKI and <u>Kohroki Katsuhisa</u> (2019) Mechanization strategy of small-scale contractors in Japan. EXCEEDING THE VISION: FOREST MECHANISATION OF THE FUTURE Proceedings of the 52nd International Symposium on Forestry Mechanization: 417-421 (参画者) 1. <u>高橋渉</u>・<u>興梠克久</u> (2020)「自伐型林業への新規参入の現状と課題: 文献レビューを中心に」『林業経済学会 2020年秋季大会学術講演集』: 36-39
備考	